

四総信海外視察研修を実施しました！

今回、四総信で初めての海外視察研修(台湾)を実施しました。平成 26 年 1 月 19 日(日)～23 日(木)まで間、母体銀行の優績者(平成 25 年度上期四総信保証付ローン獲得優績者 20 名)を対象に現地視察の他、みずほ銀行台北支店訪問および野村総合研究所の講師を招いての研修を開催しました。

みずほ銀行台北支店を訪問

「日台企業間の貿易及び産業」についての講和(一部抜粋)

- ①台湾での支店は台北と高雄の 2 店舗であり、行員数は約 260 名。他のメガバンクは台北のみ。
- ②取引先は日系約 20%、非日系約 80%であり、各企業の取引先は中国大陸が多いが、ベトナム、マレーシア、タイとの取引も拡大中である。
- ③台湾の銀行数について
台湾の銀行数は中小で約 70 行と非常に多く、預金獲得は過当競争となっている。
- ④台湾の企業倒産について
同族意識が強く、一族が助け合ってデフォルトさせない傾向が強く、次のビジネスチャンスを狙ってチャプターイレブンの申立(日本の民事再生等)は殆どない。

みずほ銀行台北支店の視察風景



野村総合研究所の講師を招いての研修風景



野村総合研究所による講話

「台湾の経済事情」についての講和(一部抜粋)

- ①台湾の人口は約 2,300 万人で南北に分散しており、日本と同様少子高齢化が進んでいる。1945 年まで日本の植民地であったが親日国家である。
- ②中小企業が約 90%と多く、物作り産業と IT 産業が地場で定着している。賃金は安く大卒初任給は 8～9 万円で、40 歳代になっても増加しないため収支のバランスがとれず、20～30 代は転職が多く自分に合った仕事を探すため起業意識が強い。女性の就業率が高く晩婚化も進んでいる。
- ③対中直接投資リスクが高いため、台湾へ進出し、台湾から中国への投資の足がかりとなっている。

参加者の感想

- ・メガバンクの海外支店を視察するといった貴重な経験ができました。台湾の経済情勢や海外進出企業の方々との対談を通して日常生活ではできない多くのことを学ぶことができました。
- ・海外へ進出している企業の声を直接聞くことができる機会はなく、現地のことを学ぶことができたと思います。特にみずほ銀行の視察は同じ金融機関ということもあり、大変興味深いものでした。
- ・異国の文化を知ることができたため知識の幅が広がりました。また、アジア進出を考えるお客様が現れた場合にはこの経験が役立つと思います。
- ・日本と台湾の環境の違いはありますが、他国の経済事情を直接肌で感じとることができたと思います。日本の経済状況を考え、お客様に合った営業を心掛けていきたいと思っています。

次回の海外研修の実施について

平成 25 年度下期も同様に母体銀行の優績者(四総信保証付ローン優績者)を対象に海外視察研修を実施いたします。

